

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 46 号

2014 (平成26) 年12月20日 (土)

「ろんごじゅくにかよってよかった。」

札幌市立幌北小学校1年 前山 彩

わたしがろんごじゅくにかよってよかったなとおもったことは、にったせんせいがおべんきょうをおしえてくれるからです。

しらなかったことをおとなのじゅくせいにも、いつもおしえていることがすごいなとおもいます。

わたしも、にったせんせいのろんごじゅくは、ただしくおべんきょうをまなべるからたのしいです。

ぎぜんは、あしがいたいけどがんばります。

べんろんたいかいのことでは、たくさんのおきやくさんが目のまえにいてきんちょうしたけど大きなこえで、はっぴょうをがんばりました。もう二どとでれないけれども、大きくなったらもう一どでてみたいです。

すきなしょうくは、「子曰わく、父母在せば、遠く遊ばず。遊ぶこと必ず方あり。」です。

りゆうは、お父さんやお母さんにしらせなかったら、しらない人につれていかれてあぶない目にあうかもしれないからです。でかけるときは、わたしもきをつけようとおもいます。

これからも、ろんごじゅくをつづけたいです。

※ 来月(1月)は、高橋 せれん さん(小6)にお願いします。

◆「みんなの声」の箱より

10月に初めて設置された「みんなの声」の箱には、次のような意見が投稿されていましたので紹介します。

「論語教室だより」の塾生紹介には、塾生だけでなく、新田先生はじめ世話人の方々や近藤住 職、大波僧侶など論語塾に関わって下さっている方々についても載せて頂けると、これはまたちょっと楽しくなると思うのですが、いかがでしょうか。(検討させてもらいますが、主旨はあくまでも塾生である点、ご理解下さい。)

ひっ
必

しょう
笑

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

今年も残すところあとわずかになりましたが、幼・小・中・高生の塾生の皆さんは、いよいよ待望の冬休みに入ります。ゆとりを持った計画を立て、年末年始も生活のリズムを崩さないよう気をつけてほしいと思います。

「寺子屋・こども論語塾」も早いもので四周年を迎えました。千歳、江別、北広島といった遠方からの方そして幼稚園児から高齢の方まで総勢約六十名が共通の目的に向かって集う空間は、私にとって掛け替えのない宝物のように感じております。主宰者としてこれに勝る喜びはありません。

ところで、冒頭の「必笑」という言葉は、今年の夏の甲子園に石川県代表として出場した星稜高校野球部(前野球部監督で松井秀喜氏を育てた山下智茂総監督は私の大学時代からの無二の親友)が、「必勝」をもじって表現した言葉です。県大会の決勝戦。9回の表まで0対8で負けていました。敗色濃厚の9回裏に何と打者13人の猛攻で一挙9点を奪い、奇跡の大逆転勝ちをおさめ見事甲子園出場を果たしたのです。

大逆転劇の裏側にあったのは、「必笑」という合言葉だったことは言うまでもありません。「笑えば前向きになれる」と、普段の練習から「笑顔」を忘れないように、部員間で話し合っって生み出された言葉だったので

す。塾生も辛い時、悲しい時には必笑を胸に刻み、明るく生きていってほしいと願わずにはられません。最後に、この冬休みを利用し、希薄になりつつある親子の対話が一層深まることを期待します。

どうぞよいお年を!